

花火と並ぶ夏の風物詩、盆踊り。たまたまネットで「無音盆踊り」というのを見つけた。音のしない盆踊り、まさかと思ったが、実際に愛知県東海市で毎年8月に行われている。今年も8月13日、14日の二日間実施された。

盆踊りの曲が会場に流れるのではなく、曲をFM電波で飛ばし、参加者は指定の周波数に携帯ラジオを合わせてイヤホンで曲を聴きながら踊るという趣向。この時は太鼓もエアー太鼓（叩いているふり）という徹底ぶり。輪になった踊り手が静寂の中、無音で踊る様子は、ちょっと「不気味」な感じがしてなんとも「風情がない」と思うが。

騒音対策を兼ねて無音で行なうようになってほしいが、ユニークさが話題を呼び、年々参加者が増加しているという。本当？と思うが「踊りに没頭できる」という好評価もあるようで、行政の苦肉の策が、話題づくりになっている形だ。ちなみに平成21年の最初の年の参加者は40程度だったが、今は400人以上にふくらんでいるという。

ただ、盆踊りは心浮き立つ音楽が鳴り響いてこそそのもの。一部の地域住民との根強い騒音問題が、ここまで来たのかと虚しさを感じる。

最近では、学校や幼稚園にも騒音の苦情がくるらしい。それにしても、うるさいとはいえ、一年に一度の盆踊りにクレームをつける方もどうかと思うが、その苦情にいちいちこのような形で取り合うから、どんどんつけあがらせることになるという考えもある。ネット上では、なんでもかんでもクレマーの言いなりになっていいの？ こんな前例を積み上げていくことこそ、社会にとって大きな損失になるのでは？ …… という意見が多数飛び交っている。それにしても、地域住民の連帯感と一体感が持ち味のお祭りや盆踊りなどが、一部の心無い人により壊されてしまうことはなんとも残念だ。

そういえば、以前私の住む町内でもこんなことがあった。毎年夏に、町内のお寺の境内で、納涼カラオケ大会を実施している。その年、すぐ前の住民が、「うるせーなー、いつまでやってるんだ、寝られねーじゃないか-----」とすごい剣幕でどなりこんで来た。長年続いている恒例行事で初めてのことで、そんなに夜遅くまでやっているわけでもなく、ましてその家の家族が観客席で楽しんでいるのに……。どうもその年に自治会とその人との間でなにかトラブルがあったらしい。文句はその時だけで、幸いそのカラオケ大会は、その後「無音」にならずに続いている。

地域というコミュニティが弱くなってきている今、このようなお祭りをどう維持していくかは大きな課題です。無音盆踊りは、そうした解決のひとつの形かもしれませんが、くれぐれも「花火」だけは、「無音花火」にならないように願っている。